

| | | | |
|-------|--|------|--|
| 区分・種別 | 県指定有形民俗文化財 | | |
| 名称 | いさにわじんじゃさんがく 伊佐爾波神社算額 22面 | | |
| 所在地 | 松山市桜谷町 | | |
| 所有者 | 伊佐爾波神社 | 管理団体 | |
| 指定年月日 | 平成17年12月27日 | | |
| 解説 | <p>伊佐爾波神社は、近世にはもっぱら湯月八幡宮<small>ゆづきはちまんぐう</small>と称し、現存社殿は松山藩松平家3代の定長による建立であるなど藩主の祈願社であり、同時に松山城下の南部および東部地域の氏神でもあった。</p> <p>当社には22面の算額が現存しており、そのうち最古のものは、江戸の関流<small>せきたかかず</small>（関孝和(1642～1708年)が創始）和算家・伊佐爾波神社の門人であった大西佐兵衛<small>ぎぜん</small>義全が享和3（1803年）5月に奉納したものである。丸山良玄は、全国の算額による掲示問題を集めた出版本『神壁算<small>しんべきさんぽう</small>法』の編者で、当代一の数学者として知られる藤田貞資<small>さだすけ</small>の門人に当たる。また、『神壁算法』の続編である『続神壁算<small>よしとき</small>法』（藤田嘉言(貞資の子)編・文化4=1807年）には本算額の算題が収録されており、加えて同書に所収されるもので現存する唯一の算額とされている。全国的に見ても比較的古い時期の算額の一つである。</p> <p>以後、この大西左兵衛一門で関流の和算家による当社への奉納が明治前期まで続き、中村正教の昭和12（1937）年奉納額を含めて、23名が奉納した22面が現存している。江戸期のものが17面、明治期が4面、昭和期が1面で、いずれも、長らく回廊に掲げられていたため、画面の保存状態は必ずしも良くはないが、原形は保たれている。なお、現在は収蔵庫に納められており、一般には公開されていない。</p> | | |

